

1号機

・1号機の原子炉注水設備においては、2月29日に実施する格納容器内部調査(気中部調査)に伴い、下記で1号機の原子炉注水を停止する。

また、調査終了後、1号機の原子炉注水を再開する。

(2月29日の原子炉注水量変更予定 調査開始前 :3.8 m³/h→0 m³/h)

(2月29日の原子炉注水量変更予定 調査終了後 :0 m³/h→3.8 m³/h)

引き続き、関連パラメータについて、慎重に監視してまいる。

2月29日午前10時13分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(原子炉注水量変更:3.8 m³/h→0 m³/h)

その後、格納容器内部調査(気中部調査)の準備において、ヘビ型ロボットが予定していたポイントに到着することができなかつたため、予定していた格納容器内部調査(気中部調査)については、調査を見送ることとしたことから、午後0時31分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(原子炉注水量変更:0 m³/h→3.8 m³/h)

関連パラメータについては、異常のないことを確認。

・1号機の原子炉注水設備においては、2月29日に見送りとしていた、格納容器内部調査(気中部調査)を3月14日に実施することとなった。これに伴い、下記で1号機の原子炉注水を停止する。

また、調査終了後、1号機の原子炉注水を再開する。

(3月14日の原子炉注水量変更予定 調査開始前 :3.8 m³/h→0 m³/h)

(3月14日の原子炉注水量変更予定 調査終了後 :0 m³/h→3.8 m³/h)

引き続き、関連パラメータについて、慎重に監視してまいる。

3月14日午前9時52分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(原子炉注水量変更:3.8 m³/h→0 m³/h)

その後、調査終了に伴い、午後0時10分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(原子炉注水量変更:0 m³/h→3.8 m³/h)

関連パラメータについては、異常のないことを確認。

・1号機の原子炉注水設備においては、原子炉格納容器の水位を計画的に低下させるため、原子炉注水量を変更する。

現在の原子炉格納容器水位(圧力抑制室底部から約8.5m)から、最終的な水位として圧力抑制室の中央部付近(圧力抑制室底部から約4m)を目指し水位低下を行う。

その過程では約50cmごと、段階的に8つのホールドポイントを設けることとし、ホールドポイントに向けて水位を低下させる期間と、ホールドポイントにて水位を維持し影響を確認する期間、各々2週間程度設ける予定。

今回、ホールドポイント1(圧力抑制室底部から約7.9m)に向けた水位低下のため、下記の通り原子炉注水量を変更する。

(3月26日の原子炉注水量変更予定:3.8 m³/h→3.4 m³/h)

この間、水位低下傾向を監視しつつ、下記の設定流量の範囲の中で随時調整する。

(設定流量:3.4 ±0.3 m³/h)

水位がホールドポイント1到達後は、水位維持のため、下記の通り原子炉注水量を変更する。

(ホールドポイント1付近到達後の原子炉注水量変更予定:3.4 m³/h→3.6 m³/h)

この間、水位安定傾向を監視しつつ、下記の設定流量の範囲の中で随時調整する。

(設定流量:3.6 ±0.3 m³/h)

なお、設定流量の範囲を超えて流量を調整する場合はお知らせする。

3月26日午後2時20分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(原子炉注水量変更:3.8 m³/h→3.4 m³/h)

3月26日に原子炉格納容器水位(圧力抑制室底部から約8.5m)の低下を開始し、関連パラメータを監視してきたが、3月29日から当初想定よりも水位低下が緩やかな状況にある。

この状況が継続した場合、ホールドポイント1(圧力抑制室底部から約7.9m)到達が大幅に遅れることから、下記の通り原子炉注水量・設定流量を変更する。

なお、水位低下が緩やかになった理由は、確認している漏れい口のひとつである真空破壊ラインベローズが水位低下に伴い露出した影響と考えている。

(4月2日の原子炉注水量変更予定:3.1 m³/h→2.7 m³/h)

この間、水位低下傾向を監視しつつ、下記の設定流量の範囲の中で随時調整する。

(設定流量:3.4 ±0.3 m³/h → 2.7 ±0.3 m³/h)

水位がホールドポイント1到達後は、水位維持のため、下記の通り原子炉注水量を変更する。

(ホールドポイント1付近到達後の原子炉注水量変更予定:2.7 m³/h→3.1 m³/h)

この間、水位安定傾向を監視しつつ、下記の設定流量の範囲の中で随時調整する。

(設定流量:3.1 ±0.3 m³/h)

なお、設定流量の範囲を超えて流量を調整する場合はお知らせする。

4月2日午前10時14分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(原子炉注水量変更:3.1 m³/h→2.7 m³/h)

4月11日午前10時37分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(原子炉注水量変更:2.4 m³/h→3.0 m³/h)

その後、ホールドポイント1の原子炉格納容器水位を維持するため、原子炉注水量を設定流量の範囲内の3.0 m³/hから2.8 m³/hまで調整して、原子炉格納容器水位を監視してきたが、原子炉格納容器水位に緩やかな上昇傾向が継続していることから、ホールドポイント1付近で原子炉格納容器水位を維持するため、4月12日に以下の通り原子炉注水量・設定流量を変更した。

(4月12日の原子炉注水量変更:2.8 m³/h→2.5 m³/h)

(設定流量:3.1 ±0.3 m³/h→2.7 ±0.3 m³/h)

今後、原子炉注水量については、ホールドポイント1の原子炉格納容器水位を維持するため、水位安定傾向を監視しつつ、設定流量の範囲の中で随時調整する。

なお、設定流量の範囲を超えて流量を調整する場合はお知らせする。

関連パラメータについては、異常のないことを確認。

引き続き、慎重に監視してまいる。

・1号機原子炉格納容器においては、原子炉注水量を変更することにより、計画的に圧力抑制室中央部付近(圧力抑制室底部から約4m)を目指し水位低下を3月26日から実施中。

その過程では約50cmごと、段階的に8つのホールドポイントを設けることとし、ホールドポイントに向けて水位を低下させる期間と、ホールドポイントにて水位を維持し影響を確認する期間、各々2週間

程度設ける予定。

4月11日に原子炉格納容器水位がホールドポイント1に到達以降、水位を維持した状態で水位低下によるプラントパラメータへの影響を確認し、異常が確認されなかったことから、ホールドポイント2(圧力抑制室底部から約7.4m)に向けた水位低下のため、5月13日、午前11時13分、下記の通り原子炉注水量を変更した。

この間、水位低下傾向を監視しつつ、下記の設定幅の中で随時調整する。

<原子炉注水変更>

原子炉注水量 (設定幅)	5月13日 原子炉注水量変更前	5月13日 原子炉注水量変更後	ホールドポイント2 到達後
		2.9m ³ /h (2.7±0.3m ³ /h)	2.3m ³ /h (2.3±0.3m ³ /h)

関連パラメータについては、異常のないことを確認。

なお、原子炉注水量の設定幅を超えて流量を調整する場合にはお知らせする。

また、ホールドポイント2到達後の原子炉注水量および設定流量は現時点での想定であり、今後の水位低下操作実績や水位の変化状況を踏まえ変更になる可能性がある。変更となった場合は、お知らせする。引き続き、関連パラメータについて、慎重に監視してまいります。

・ホールドポイント2に向けた水位低下開始以降、原子炉格納容器の水位低下傾向を監視しつつ、原子炉注水量を設定幅の2.3±0.3m³/hの範囲で調整し、現在、原子炉注水量を2.6m³/hに設定している。

5月25日、午前9時25分頃、1号機原子炉格納容器バブラ式水位計の指示値がホールドポイント2以下になったことから、原子炉格納容器水位がホールドポイント2に到達したと判断した。

午前9時56分、ホールドポイント2の水位を維持した状態で、水位低下による各プラントパラメータへの影響を確認するため、原子炉注水量を以下の通り変更した。

この間、水位維持傾向を監視しつつ、以下の設定幅の中で随時調整する。

なお、ホールドポイント2水位到達後の原子炉注水量および設定幅について、ホールドポイント2水位到達までの水位低下実績を踏まえ当初予定から変更している。

<原子炉注水変更>

原子炉注水量 (設定幅)	5月25日 ホールドポイント2到達 前	5月25日 ホールドポイント2到達 後	ホールドポイント2 到達後(当初予定)
		2.6m ³ /h (2.3±0.3m ³ /h)	2.8m ³ /h (2.8±0.3m ³ /h)

関連パラメータについては、異常のないことを確認。

なお、原子炉注水量の設定幅を超えて流量を調整する場合にはお知らせする。

引き続き、関連パラメータについて、慎重に監視してまいります。

2号機

・2号機の原子炉注水設備においては、季節による原子炉注水の温度変動に伴い、燃料デブリの冷却に必要な注水量が変わる。

今回、冬季の原子炉注水温度の低下に伴い、2号機の原子炉注水量を下記の通り変更する。

(1月9日の原子炉注水量変更予定:1.5m³/h→1.3m³/h)

引き続き、関連パラメータについて、慎重に監視してまいります。

1月9日午前10時11分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(1月9日の原子炉注水量変更:1.5m³/h→1.3m³/h)

関連パラメータについては、異常のないことを確認。引き続き、慎重に監視してまいります。

・2号機の原子炉注水設備においては、季節による原子炉注水の温度変動に伴い、燃料デブリの冷却に必要な注水量が変わる。

今回、春季の注水源温度の上昇に伴い、2号機の原子炉注水量を下記の通り変更する。

(3月21日の原子炉注水量変更予定:1.3m³/h→1.5m³/h)

引き続き、関連パラメータについて、慎重に監視してまいります。

3月21日午前9時26分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(3月21日の原子炉注水量変更:1.3m³/h→1.5m³/h)

関連パラメータについては、異常のないことを確認。

引き続き、慎重に監視してまいります。

3号機

・3号機において、2023年12月から2024年3月にかけて原子炉格納容器ガス管理設備の排気ファン上流で酸素濃度を測定したところ、約2~3%の酸素を検出。

原子炉格納容器内は窒素封入により不活性状態を維持しており、今回の検出値からもその効果は確認できているが、原子炉格納容器内にも同程度の酸素が存在している可能性があるため、酸素濃度をより低減し、さらなる原子炉格納容器内の機器保全ならびに環境維持に繋げることを目的に、原子炉格納容器窒素封入量を以下のとおり変更する。

<3号機窒素封入量変更>

(4月19日)

窒素封入量:16Nm³/h→19Nm³/h

窒素封入量変更後も、酸素濃度を確認する。

4月19日、午前10時31分、原子炉格納容器窒素封入量を以下のとおり変更した。

(窒素封入量変更:16.0Nm³/h→17.2Nm³/h)

関連パラメータについては、異常のないことを確認。

なお、窒素封入量は酸素濃度の傾向を確認しつつ変更する可能性がある。再度、窒素封入量を変更する場合は、事前にお知らせする。

引き続き、慎重に監視してまいります。

・3号機においては、原子炉格納容器内の酸素濃度をより低減し、さらなる機器保全ならびに環境維持に繋げることを目的に、原子炉圧力容器ラインからの窒素封入量の変更を4月19日に実施している。

目標:16Nm³/h→19Nm³/h

実績:16Nm³/h→17.2Nm³/h

原子炉圧力容器ラインに加え、新たに原子炉格納容器ラインからも窒素を封入することで、合計流量を19Nm³/hとすることを目標として、原子炉格納容器窒素封入量を以下のとおり変更する。

<3号機窒素封入量変更予定>

(4月24日)

窒素封入量:17.2Nm³/h→19.0Nm³/h

[内訳]原子炉圧力容器ライン:17.2Nm³/h→13.0Nm³/h

原子炉格納容器ライン: 0.0Nm³/h→ 6.0Nm³/h

なお、4月19日の窒素封入量変更前後において、酸素濃度を確認しており、結果は以下のとおり。引き続き、酸素濃度を確認する。

<原子炉格納容器ガス管理設備の排気ファン上流 酸素濃度測定結果>

2023年12月から2024年3月 約2～3%

(4月19日)0.8%

(4月22日)0.9%

今後も、窒素封入量は酸素濃度等の傾向を確認しつつ変更する可能性がある。再度、窒素封入量を変更する場合は、事前にお知らせする。

引き続き、関連パラメータについて、慎重に監視してまいります。

4月24日、所内電源A系停止の発生に伴い延期する。変更後の実施日については、確定次第お知らせする。

・3号機においては、原子炉格納容器内の酸素濃度をより低減し、さらなる機器保全ならびに環境維持に繋げることを目的に、原子炉格納容器窒素封入量を4月24日に変更する予定だったが、所内電源A系停止に伴い延期している。

延期していた原子炉格納容器窒素封入量の変更日が確定したことから、以下のとおりお知らせする。

<3号機窒素封入量変更予定>

(5月9日)

窒素封入量:17.2Nm³/h→19.0Nm³/h

[内訳]原子炉圧力容器ライン:17.2Nm³/h→13.0Nm³/h

原子炉格納容器ライン: 0.0Nm³/h→ 6.0Nm³/h

5月9日、午前10時40分、3号機原子炉格納容器窒素封入量を以下のとおり変更した。

窒素封入量:16.0 Nm³/h→19.0 Nm³/h (窒素封入量は、計画的な窒素ガス分離装置の運転号機切替の影響に伴い、17.2Nm³/hから16.0Nm³/hまで減少している)

[内訳]原子炉圧力容器ライン:16.0Nm³/h→13.0Nm³/h

原子炉格納容器ライン: 0.0Nm³/h→ 6.0Nm³/h

関連パラメータについては、異常のないことを確認。

なお、窒素封入量は酸素濃度等の傾向を確認しつつ変更する可能性がある。再度、窒素封入量を変更する場合は、事前にお知らせする。

引き続き、関連パラメータについて、慎重に監視してまいります。

4号機

現時点での特記事項なし

5号機

※5号機は使用済燃料プール冷却浄化系-残留熱除去系出口連絡弁点検のため、2月28日午後2時21分に使用済燃料プール冷却を停止した。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は17.8℃。5号機使用済燃料プール冷却浄化系-残留熱除去系出口連絡弁点検が終了したことから、3月5日午後2時25分、使用済燃料プール冷却の運転を再開。運転再開後の使用済燃料プール水温度は33.2℃。運転状態について異常がないことを確認。

6号機

※6号機は使用済燃料プールのサイフォン防止対策工事のため、1月15日午前10時38分に使用済燃料プール冷却を停止した。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は19.8℃。

6号機使用済燃料プールのサイフォン防止対策工事が終了したことから、1月16日午後2時39分、使用済燃料プール冷却の運転を再開。運転再開後の使用済燃料プール水温度は23.5℃。運転状態について異常がないことを確認。

・6号機は使用済燃料プール冷却浄化系の計装品および弁点検のため、3月13日午後0時41分に使用済燃料プール冷却を停止した。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は22.4℃。

・6号機使用済燃料プール冷却浄化系の計装品および弁点検が終了したことから、3月15日午後0時8分、使用済燃料プール冷却の運転を再開。運転再開後の使用済燃料プール水温度は27.4℃。運転状態について異常がないことを確認。

水処理装置および貯蔵設備の状況

【タンクパトロール結果】

現時点での特記事項なし

【H4, H6エアータンクにおける水漏れに関するサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【地下貯水槽に関する水のサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【セシウム除去設備】

現時点での特記事項なし

【多核種除去設備(ALPS)】

現時点での特記事項なし

【増設多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【高性能多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【淡水化装置】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮水処理設備】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮廃液タンク水処理設備】

現時点での特記事項なし

【その他】

現時点での特記事項なし

サブドレン他水処理施設

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯水タンクE 1月1日午前10時37分～午後2時35分。排水量590m³
- ・一時貯水タンクF 1月3日午前10時30分～午後4時8分。排水量838m³
- ・一時貯水タンクG 1月5日午前10時30分～午後3時0分。排水量671m³
- ・一時貯水タンクA 1月7日午前10時18分～午後1時54分。排水量537m³
- ・一時貯水タンクB 1月9日午前10時30分～午後3時1分。排水量671m³
- ・一時貯水タンクC 1月11日午前10時22分～午後1時40分。排水量492m³
- ・一時貯水タンクD 1月13日午前11時57分～午後3時32分。排水量534m³
- ・一時貯水タンクE 1月16日午前10時23分～午後2時3分。排水量545m³
- ・一時貯水タンクF 1月17日午前10時17分～午後1時48分。排水量520m³
- ・一時貯水タンクG 1月19日午前10時28分～午後1時31分。排水量454m³
- ・一時貯水タンクH 1月21日午前11時19分～午後2時7分。排水量417m³
- ・一時貯水タンクC 1月26日午前10時44分～午後2時33分。排水量569m³
- ・一時貯水タンクD 1月27日午前10時36分～午後2時35分。排水量591m³
- ・一時貯水タンクB 1月30日午前10時22分～午後1時。排水量390m³
- ・一時貯水タンクE 1月31日午前11時54分～午後4時50分。排水量605m³
- ・一時貯水タンクG 2月2日午前10時12分～午後5時3分。排水量1,021m³
- ・一時貯水タンクF 2月3日午前11時46分～午後2時40分。排水量432m³
- ・一時貯水タンクH 2月4日午前10時31分～午後4時。排水量818m³
- ・一時貯水タンクA 2月6日午前11時12分～午後5時52分。排水量996m³
- ・一時貯水タンクB 2月8日午前10時48分～午後5時31分。排水量1,003m³
- ・一時貯水タンクC 2月10日午前10時42分～午後4時41分。排水量892m³
- ・一時貯水タンクK 2月11日午前10時15分～午前3時13分。排水量741m³
- ・一時貯水タンクD 2月12日午前11時29分～午前4時47分。排水量792m³

- ・一時貯水タンクE 2月15日午前11時4分～午前3時37分。排水量678m³
- ・一時貯水タンクJ 2月16日午後1時28分～午後6時40分。排水量776m³
- ・一時貯水タンクA 2月18日午前10時39分～午後3時57分。排水量790m³
- ・一時貯水タンクB 2月20日午前11時3分～午後3時54分。排水量725m³
- ・一時貯水タンクC 2月23日午前10時14分～午後2時56分。排水量703m³
- ・一時貯水タンクD 2月24日午前10時51分～午後1時59分。排水量467m³
- ・一時貯水タンクE 2月27日午前10時22分～午後2時18分。排水量586m³
- ・一時貯水タンクJ 2月29日午前10時50分～午後2時16分。排水量511m³
- ・一時貯水タンクA 3月1日午前10時25分～午後2時20分。排水量585m³
- ・一時貯水タンクB 3月3日午前11時9分～午後4時12分。排水量751m³
- ・一時貯水タンクC 3月5日午前10時14分～午後2時58分。排水量704m³
- ・一時貯水タンクD 3月7日午前11時3分～午後4時12分。排水量767m³
- ・一時貯水タンクF 3月9日午前11時～午後2時40分。排水量544m³
- ・一時貯水タンクJ 3月10日午前10時13分～午後2時59分。排水量710m³
- ・一時貯水タンクK 3月12日午前10時43分～午後3時35分。排水量724m³
- ・一時貯水タンクB 3月14日午前10時41分～午後2時55分。排水量631m³
- ・一時貯水タンクC 3月18日午前10時32分～午後5時6分。排水量979m³
- ・一時貯水タンクD 3月20日午前10時34分～午後5時16分。排水量999m³
- ・一時貯水タンクF 3月21日午前10時43分～午後5時23分。排水量994m³
- ・一時貯水タンクJ 3月23日午前11時39分～午後6時10分。排水量970m³
- ・一時貯水タンクK 3月24日午前11時26分～午後3時3分。排水量538m³
- ・一時貯水タンクG 3月25日午前10時36分～午後2時38分。排水量601m³
- ・一時貯水タンクC 3月26日午後0時39分～午後7時24分。排水量1,006m³
- ・一時貯水タンクH 3月27日午前10時47分～午後2時34分。排水量563m³
- ・一時貯水タンクD 3月29日午前10時52分～午後5時12分。排水量944m³
- ・一時貯水タンクF 3月30日午後12時7分～午後6時20分。排水量927m³
- ・一時貯水タンクL 3月31日午前11時15分～午後2時10分。排水量432m³
- ・一時貯水タンクK 4月1日午前10時33分～午後3時45分。排水量774m³
- ・一時貯水タンクB 4月3日午前10時59分～午後4時43分。排水量854m³
- ・一時貯水タンクC 4月4日午前10時20分～午後2時21分。排水量596m³
- ・一時貯水タンクD 4月6日午前11時00分～午後5時38分。排水量991m³
- ・一時貯水タンクE 4月8日午前10時49分～午後3時40分。排水量721m³
- ・一時貯水タンクF 4月9日午前10時20分～午後5時2分。排水量998m³
- ・一時貯水タンクG 4月10日午前9時58分～午後4時39分。排水量996m³
- ・一時貯水タンクB 4月12日午前11時3分～午後3時44分。排水量697m³
- ・一時貯水タンクH 4月12日午前10時25分～午後5時11分。排水量1,009m³
- ・一時貯水タンクJ 4月13日午前10時46分～午後5時30分。排水量1,004m³
- ・一時貯水タンクC 4月14日午前10時41分～午後3時16分。排水量682m³
- ・一時貯水タンクD 4月16日午前10時35分～午後4時55分。排水量945m³
- ・一時貯水タンクE 4月17日午前11時38分～午後4時56分。排水量793m³
- ・一時貯水タンクF 4月17日午前10時35分～午後3時51分。排水量785m³

- ・一時貯水タンクG 4月20日午前10時23分～午後4時1分。排水量839m³
- ・一時貯水タンクH 4月21日午前10時～午後4時45分。排水量1,007m³
- ・一時貯水タンクK 4月22日午前10時23分～午後5時5分。排水量1,000m³
- ・一時貯水タンクC 4月22日午前10時5分～午後3時12分。排水量761m³
- ・一時貯水タンクD 4月24日午後6時49分～午後11時52分。排水量751m³
- ・一時貯水タンクE 4月25日午前10時51分～午後4時28分。排水量838m³
- ・一時貯水タンクF 4月26日午前10時28分～午後5時13分。排水量1,007m³
- ・一時貯水タンクB 4月27日午前10時31分～午後4時17分。排水量859m³
- ・一時貯水タンクG 4月28日午前10時38分～午後3時12分。排水量679m³
- ・一時貯水タンクH 4月29日午前10時6分～午後3時25分。排水量791m³
- ・一時貯水タンクC 4月30日午前10時20分～午後3時40分。排水量795m³
- ・一時貯水タンクA 5月1日午前10時55分～午後3時39分。排水量705m³
- ・一時貯水タンクD 5月2日午前10時19分～午後1時39分。排水量495m³
- ・一時貯水タンクE 5月3日午前10時48分～午後2時37分。排水量566m³
- ・一時貯水タンクF 5月4日午前10時33分～午後2時43分。排水量621m³
- ・一時貯水タンクJ 5月5日午前9時47分～午後1時17分。排水量519m³
- ・一時貯水タンクG 5月6日午前9時53分～午後1時22分。排水量517m³
- ・一時貯水タンクH 5月8日午前11時26分～午後2時24分。排水量442m³
- ・一時貯水タンクK 5月8日午前11時44分～午後2時37分。排水量428m³
- ・一時貯水タンクL 5月9日午前10時24分～午後1時22分。排水量439m³
- ・一時貯水タンクC 5月10日午前10時24分～午後0時57分。排水量378m³
- ・一時貯水タンクD 5月11日午前10時33分～午後0時52分。排水量343m³
- ・一時貯水タンクE 5月12日午後2時18分～午後4時31分。排水量330m³
- ・一時貯水タンクF 5月13日午前11時26分～午後1時39分。排水量329m³
- ・一時貯水タンクG 5月14日午前10時28分～午後1時21分。排水量429m³
- ・一時貯水タンクK 5月16日午前10時19分～午後2時2分。排水量552m³
- ・一時貯水タンクC 5月18日午前10時58分～午後1時31分。排水量378m³
- ・一時貯水タンクD 5月19日午前10時30分～午後0時45分。排水量332m³
- ・一時貯水タンクL 5月20日午前11時10分～午後1時54分。排水量404m³
- ・一時貯水タンクE 5月20日午前11時38分～午後1時54分。排水量335m³
- ・一時貯水タンクF 5月21日午前10時22分～午後1時10分。排水量415m³
- ・一時貯水タンクG 5月22日午前11時13分～午後2時42分。排水量517m³
- ・一時貯水タンクH 5月23日午前10時27分～午後2時13分。排水量560m³
- ・一時貯水タンクK 5月24日午前9時51分～午後1時27分。排水量535m³
- ・一時貯水タンクA 5月24日午前10時15分～午後1時50分。排水量534m³

<特記事項>

- *一時貯水タンクBの排水については、水位計に不具合が確認され、1月23日中の復旧が見込めないことから、排水を延期。延期する排水日時が定まった場合には、お知らせする。
- *一時貯水タンクBの排水については、1月23日に水位計の不具合が確認されたため、排水を延期していたが、1月24日に水位計を交換し、不具合が解消したことから、再度排水前分析を実施し

た。

地下水バイパス

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯留タンクグループ3 1月6日午前9時53分～午後5時13分。排水量2,011m³
- ・一時貯留タンクグループ2 1月13日午前10時58分～午後6時15分。排水量2,016m³
- ・一時貯留タンクグループ3 1月22日午前11時19分～午後6時11分。排水量1,860m³
- ・一時貯留タンクグループ1 2月16日午前11時40分～午後5時9分。排水量1,210m³
- ・一時貯留タンクグループ2 3月13日午前10時38分～午後3時27分。排水量1,361m³
- ・一時貯留タンクグループ3 3月22日午前10時24分～午後5時54分。排水量2,120m³
- ・一時貯留タンクグループ1 4月2日午前10時28分～午後4時14分。排水量1,579m³
- ・一時貯留タンクグループ2 4月3日午前10時17分～午後4時35分。排水量1,718m³
- ・一時貯留タンクグループ3 4月10日午前10時18分～午後4時40分。排水量1,737m³
- ・一時貯留タンクグループ1 4月17日午前10時5分～午後4時6分。排水量1,686m³
- ・一時貯留タンクグループ2 4月24日午前10時14分～午後4時3分。排水量1,663m³
- ・一時貯留タンクグループ3 5月1日午前10時14分～午後4時15分。排水量1,686m³
- ・一時貯留タンクグループ1 5月8日午前10時27分～午後4時27分。排水量1,665m³
- ・一時貯留タンクグループ2 5月15日午前10時7分～午後3時56分。排水量1,647m³
- ・一時貯留タンクグループ3 5月22日午前10時21分～午後4時13分。排水量1,647m³

<特記事項>

現時点での特記事項なし

ALPS 処理水測定・確認用タンク

以下、放水実績のみ記載。

<放水実績>

- ・ALPS 処理水測定確認用タンクB群
2月28日午前11時11分～3月17日午後0時16分。7,794m³
- ・ALPS 処理水測定確認用タンクC群
4月19日午前11時14分～5月7日午後0時15分。7,851m³
※なお、所内電源A系停止に伴い、以下の時間、放出を停止していた。
放出停止実績:4月24日午前10時43分～午後5時16分。
- ・ALPS 処理水測定確認用タンクA群 5月17日午前11時37分～5月18日午前0時 約234m³
5月18日午前0時～5月19日午前0時 約456m³
5月19日午前0時～5月20日午前0時 約456m³
5月20日午前0時～5月21日午前0時 約456m³
5月21日午前0時～5月22日午前0時 約456m³

5月22日午前0時～5月23日午前0時 約456m³
5月23日午前0時～5月24日午前0時 約456m³
5月24日午前0時～5月25日午前0時 約456m³

【1～4号機サブドレン観測井のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項なし

【1号機放水路のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項なし

その他

【陸側遮水壁】

現時点での特記事項なし

【雑固体廃棄物焼却設備】

現時点での特記事項なし

【増設雑固体廃棄物焼却設備】

現時点での特記事項なし

【窒素封入設備】

現時点での特記事項なし

【その他設備の不具合・トラブル】

・2月19日、午後7時42分頃、1号機原子炉格納容器ガス管理設備において、核種分析装置B系の伝送異常警報が発生し、現場のモニタによる指示値の確認も水来ないことから午後7時59分に希ガスモニタB系の監視が水来ない状態と判断。

なお、ドライウェル圧力、原子炉格納容器ガス管理設備排気流量、水素濃度、ダスト指示等に変化がなく、希ガスモニタA系については、異常はなく監視に支障がないことを確認。

調査を行った結果、核種分析装置B系の現場監視装置モニタにエラーメッセージが発生していたことを確認したことから、午後10時28分に現場監視装置を再起動した。

その後、希ガスモニタB系の指示値に異常がないことを確認したことから、午後11時43分、監視可能な状態に復帰したものと判断。

今後、伝送異常が発生した原因を調査していく。

・4月17日、午前10時13分頃、所内共通ディーゼル発電機(B)の定例試験中に受電遮断器が投入できない事案が発生し、午前10時52分に待機除外を判断。

状況は以下のとおり。

- ・設備名称 : 所内共通ディーゼル発電機(B)
- ・発見者 : 当社社員
- ・設備の状況 : 確認中
- ・応急処置 : 受電遮断器の点検を予定

・影響拡大の有無: 外部電源は確保されており、1～3号機の冷温停止の維持および使用済燃料プールの冷却に支障を及ぼすおそれなし

・外部への影響 : プラントパラメータ、モニタリングポストの指示に異常なし

その後、所内共通ディーゼル発電機(B)の当該受電遮断器を点検したうえで、定例試験を再度実施し、異常がないことを確認。これにより、4月17日、午後4時47分、所内共通ディーゼル発電機(B)は待機状態と判断。

・4月24日午前10時43分頃、所内電源A系が停止した。

プラント状況は以下のとおり。

- ・原子炉注水設備(1, 2, 3号機) : 運転継続
- ・使用済燃料プール冷却設備(1, 2, 5, 6号機、共用プール) : 運転継続
- ・格納容器ガス管理設備(1, 2, 3号機) : 運転継続
- ・窒素封入設備(1, 2, 3号機) : 運転継続
- ・陸側遮水壁設備 : 運転継続
- ・滞留水移送設備 : 運転継続
- ・サブドレン他水処理設備 : 運転継続
- ・多核種除去設備 : 停止中(異常なし)
- ・1～6号機設備プラントパラメータ : 異常なし
- ・滞留水移送設備・水処理設備パラメータ : 異常なし
- ・排気筒モニタの指示値 : 異常なし
- ・構内ダストモニタ指示値 : 異常なし
- ・構内線量表示器指示値 : 異常なし
- ・構内排水路モニタ、海水放射線モニタ指示値 : 異常なし
- ・ALPS処理水希釈放出設備 : 放出停止(停止時刻: 午前10時43分)

午前10時43分頃に発生した所内電源A系の停止に伴い、免震重要棟M/Cの電圧がなくなった。このため、午前10時43分に実施計画第1編第29条で定める運転上の制限「免震重要棟の維持に必要な交流高圧電源母線が受電されていること」を逸脱したと判断。

免震重要棟電源については、午前10時43分に免震重要棟ガスタービン発電機が自動起動し、午前11時30分現場にて免震重要棟M/C母線電圧確立を確認したことから、運転上の制限逸脱からの復帰を判断。

また、午後0時にALPS処理水希釈放出設備に異常がないことを確認。

現場状況を確認したところ、大型機器点検建屋西側屋外において発生した負傷者が掘削していた現場は、停止した所内電源A系ケーブル(電路)の近傍であることが確認されたことから、掘削作業によりケーブルを損傷したものと推定。詳細については現在調査中。

4月24日、午後2時23分頃、所内電源A系の電源復旧作業の過程において、免震重要棟の電源が喪失。

このため、午後2時23分に実施計画第1編第29条で定める運転上の制限「免震重要棟の維持に必要な交流高圧電源母線が受電されていること」を逸脱したと判断。

その後、午後2時43分に所内共通M/C5Aより免震重要棟M/Cを受電し母線電圧確立を確認したことから、午後2時43分運転上の制限逸脱からの復帰を判断。

所内共通M/C1Aおよびその下流のM/C電源について、受電操作が完了。(完了時刻: 4月24日午後4時3分)

所内共通 M/C1A 系の停止により、ALPS 処理水希釈放出設備は停止していたが、電源受電操作が完了したことから、4月24日、午後5時16分に放出を再開。放出状況については、漏えい等の異常がないことを確認。

【けが人・体調不良者等】

・2月7日午前10時49分頃、発電所構内第二土捨て場において、体調不良者が発生し、入退域管理棟救急医療室で医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断されたため、午前11時48分、救急車を要請。

状況は以下のとおり。

- ・体調不良者の所属 : 協力企業作業員
- ・身体汚染の有無 : なし
- ・発生状況 : 作業中、体調不良を訴えた

当該体調不良者は、救急車で医療機関に到着。

- ・救急車水発時刻 : 午後0時14分
- ・救急車到着時刻 : 午後0時31分

その後、当該体調不良者については、医療機関にて医師の診断の結果、個人の疾病と判断。なお、個人の疾病であり、病名等は控える。

・3月19日午前10時25分頃、発電所構内1号機原子炉建屋屋外において、負傷者が発生し、入退域管理棟救急医療室の医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断されたため、午前11時20分、救急車を要請。

状況は以下のとおり。

- ・負傷者の所属 : 協力企業作業員
- ・身体汚染の有無: なし
- ・発生状況 : 作業中、工具で右手薬指を挟み負傷

当該負傷者は、救急車で医療機関に到着

- ・救急車水発時刻: 午前11時51分
- ・救急車到着時刻: 午後0時35分

その後、当該負傷者については、医療機関にて医師の診断の結果、右環指指尖部損傷と診断。

・4月22日午前8時45分頃、2号機燃料取り出し用構台において、負傷者が発生し、入退域管理棟救急医療室の医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断されたため、午前9時31分、救急車を要請。

状況は以下のとおり。

- ・負傷者の所属 : 協力企業作業員
- ・身体汚染の有無: なし
- ・発生状況 : 作業中、鉄骨に指を挟み負傷

当該負傷者は、救急車で医療機関に到着

- ・救急車出発時刻: 午前10時8分
- ・救急車到着時刻: 午後2時27分

その後、当該傷病者は、医師の診断の結果、右中指末節骨開放骨折と診断。

・4月24日午前10時47分頃、大型機器点検建屋西側屋外において、負傷者が発生し、入退域管理棟救急医療室の医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断されたため、午前10時57分、救急車を要請。

状況は以下のとおり。

- ・負傷者の所属 : 協力企業作業員
- ・身体汚染の有無: なし
- ・発生状況 : 掘削作業中、負傷した。負傷者の意識はあり。

当該負傷者は、救急車で搬送先の医療機関に到着。

- ・救急車出発時刻: 午前11時34分
- ・救急車到着時刻: 午前11時49分

医療機関にて医師の診断の結果、右頬部、右前腕2度熱傷と診断。(入院なし)

・5月23日午前8時45分頃、固体廃棄物貯蔵庫第10棟付近において、負傷者が発生し、入退域管理棟救急医療室の医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断されたため、午前9時20分、救急車を要請。

状況は以下のとおり。

- ・負傷者の所属 : 協力企業作業員
 - ・身体汚染の有無: なし
 - ・発生状況 : 生コンクリート供給作業中、ステップ(高さ約1m)から足を踏み外して転倒し負傷
- 当該負傷者は、救急車で医療機関に到着
- ・救急車出発時刻: 午前9時45分
 - ・救急車到着時刻: 午前9時56分

その後、当該負傷者は、搬送先医療機関の医師の診察の結果、左腸骨白蓋骨折と診断。

【その他】

・2月7日午前8時53分頃、協力企業作業員が高温高圧焼却炉建屋東側壁面の配管から水が漏れいしていることを確認。

状況は以下のとおり。

- ・発生場所 : 高温高圧焼却炉建屋東側
- ・漏えい箇所 : 高温高圧焼却炉建屋東側壁面に設置されている第二セシウム吸着装置のベントロ
- ・漏えい範囲 : 漏えい箇所下部敷き鉄板上約4m×4m×深さ1mm
漏えい箇所下部敷き鉄板の隙間から土壌へ漏えい水がしみ込んだ可能性あり
- ・拡大防止処置 : 漏えい箇所を区画
- ・漏えい継続の有無 : なし
- ・汚染の有無 : あり スミヤ測定結果: 72,000cpm (バックグラウンド: 300cpm)
測定結果より第二セシウム吸着装置の系統水と判断
- ・外部への影響 : モニタリングポスト・敷地境界連続ダストモニタの指示値に有意

な変動がないことを確認

漏えい箇所からの距離が最も近いK排水路モニタの指示値に有意な変動がないことを確認

漏えい箇所近傍に堰・側溝がないことを確認

漏えい箇所下部敷き鉄板の隙間から土壌へ漏えい水が染み込んだ可能性があるため、今後、土壌の回収を行う

漏えい量の概略評価を行ったところ、2月7日午後3時30分、法令に定める※「発電用原子炉施設の故障その他の不測の事態が生じたことにより、核燃料物資等(気体状のものを除く)が管理区域内で漏えいしたとき」に該当すると判断した。

なお、近傍の構内連続ダストモニタの指示値が通常の変動範囲内で一時的にごくわずかに上昇したが、現在は、元の値に戻っている。

また、モニタリングポスト・敷地境界連続ダストモニタ・漏えい箇所からの距離が最も近いK排水路モニタの指示値に有意な変動はない。

※「東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物資の防護に関する規則第18条第11号」

・2月22日午前3時37分、増設雑固体廃棄物焼却建屋の廃棄物貯留ピットの火災報知器が作動し、監視カメラで現場付近を確認したところ、現場火元なしを確認。その後、水蒸気により現場確認ができなくなったことから、以下の通り、双葉消防本部へ連絡を実施。

・発見者 : 当社社員
・プラント設備への影響 : 確認中

・双葉消防本部への連絡時刻: 午前5時58分(119番通報)

火災報知器の作動により、増設雑固体廃棄物焼却建屋の廃棄物貯留ピットに係わる防火シャッターが閉まっていることから、廃棄物貯留ピット周辺のシャッターを開放し、廃棄物貯留ピット内の状況の確認を進めている。

午後0時3分に安全を確保したうえで増設雑固体廃棄物焼却建屋3階の防火シャッターを開け、当社社員により廃棄物貯留ピットの状況を確認。目視確認の結果では、水蒸気の量は多かったものの、廃棄物貯留ピット内に炎は確認されず、廃棄物貯留ピット近傍の温度についても約30℃程度であったことを確認。なお公設消防も午後1時34分に同様の状況を確認。

現場の詳細を確認するためには、廃棄物貯留ピット内の水蒸気を排気し、視認性を高める必要があることから、今後、火災報知器の作動により停止していた排気設備を復旧する予定。

廃棄物貯留ピット内の水蒸気の排気を確認できた後、改めて現場確認を行う予定。

火災報知器の作動によって停止していた排気設備の復旧は、午後4時8分より開始し、午後8時分に復旧作業を終了。廃棄物貯留ピット内への注水を2月23日午前0時40分より開始。

廃棄物貯留ピット内への注水開始以降、廃棄物貯留ピット内の状況を確認しているが、現在も水蒸気の滞留が解消していないため、注水を継続している。

2月24日午後2時47分、公設消防により「非火災」と判断された。

水蒸気の滞留を解消することを目的とし、廃棄物貯留ピット内への注水を継続していたが、廃棄物貯留ピット上部(気相部)の温度は24℃程度まで低下したことから、廃棄物貯留ピット内への注

水容量を確保するため、2月25日午後2時03分に注水を一旦停止。今後、現場状況を確認しながら必要に応じ注水を実施。

その後、廃棄物貯留ピット内の水蒸気の滞留は無くなっており、視認性が改善された。また、廃棄物貯留ピット内の温度についても低下後安定していることを確認。現在、廃棄物貯留ピット内の水やチップの回収に向けて、検討を進めており、今後、回収に向けた準備作業から実施してまいる。なお、周辺のモニタリングポスト等への影響は確認されていない。

・3月15日午前0時14分頃、福島県沖を震源とする地震が発生。

立地4町震度は、楡葉町が震度5弱、大熊町、双葉町、富岡町が震度4。

発電所内で観測された地震加速度の最大値は、6号機原子炉建屋基礎マットにおいて、水平:19.4ガル、垂直:12.0ガル。

プラント状況は以下の通り。

・モニタリングポスト指示値 : 有意な変動なし

・発電所敷地境界ダストモニタ指示値 : 有意な変動なし

・原子炉注水設備(1, 2, 3号機) : 運転継続

・使用済燃料プール冷却設備(1, 2, 5号機、共用プール) : 運転継続

※使用済み燃料プール(6号機)地震前より冷却停止中

・陸側遮水壁設備 : 異常なし

・外部電源(大熊線3L)大熊線4Lについては点検中 : 異常なし

・外部電源(双葉線1L、2L) : 異常なし

・1~6号機設備プラントパラメータ : 異常なし

・滞留水移送設備・水処理設備パラメータ : 異常なし

・排気筒モニタの指示値 : 有意な変動なし

・構内ダストモニタ指示値 : 有意な変動なし

・構内線量表示器指示値 : 有意な変動なし

・構内排水路モニタ、海水放射線モニタ指示値 : 有意な変動なし

・ALPS処理水希釈放水設備 : 運転停止(停止時刻: 午前0時33分)

[水処理設備]

以下の設備については、遠隔監視にて異常のないことを確認しているが、あらかじめ定められた手順に従い運転を停止し、パトロールを開始。

・ALPS処理水希釈放水設備 (運転開始時刻: 午後3時49分)

・サブドレン設備

・汚染水処理設備 SARRY II

・地下水バイパス設備

・滞留水移送設備

・既設ALPS

その後、停止していたALPS処理水希釈放水設備、滞留水移送設備および水処理設備については、設備に異常がないことを確認できたため、全ての設備について午後3時49分までに運転を再開し、全ての設備について現場の異常がないことを確認している。

[パトロール]

実施計画に基づく地震後区分Ⅲパトロールを午前0時48分に開始し、午後0時50分に完了した。設備の異常は確認されていない。

なお、引き続き定例のパトロールにおいても現場設備の状況を注視して参る。